

ご協力いただける方、募集中です！



NPO法人
こどものちから

ボランティアさん

こどもと遊ぶのが好きな方、事務局のお手伝いを一緒にして下さる方、お待ちしております。

小児待合室活動日 毎週月曜日・木曜日、第2土曜日・第4日曜日 午前11時～午後2時

後援会員さん・ご寄付

この団体の活動は、みなさまの会費とご寄付や助成金で行っています。
ご理解とご協力をお願いいたします。

後援会員費・・・ご入会頂くと「こどものちから通信」をお届けします。

◆個人3,000円/年 ◆団体(1口)10,000円/年

ご寄付・・・みなさまのあたたかいお気持ちは、
きょうだいさんの笑顔を増やす活動に
大切に活用させていただきます。

◆〈こどものちから〉の1年は、4月から翌年3月までです(^_^)

お振込先

郵便振替番号：00170-7-571697

口座名：特定非営利活動法人こどものちから

お問い合わせ・発行元

「特定非営利活動法人こどものちから」事務局
〒136-0073 東京都江東区北砂 5-20-18-211
TEL：080-6867-6135

メールアドレス：tarumifight@yahoo.co.jp

※独立した事務所がございませんので、ご連絡は上記メールアドレスまでお願いいたします。

Facebook：<https://www.facebook.com/kodomonotikara>

ホームページ：<http://kodomonochikara.org/>

〈協力団体〉大原薬品工業株式会社
株式会社ソフトクリエイトホールディングス
クリフォードチャンス法律事務所



温かいご支援をくださいましたみなさま、
いつもお心に留めていただきありがとうございます。
代表 井上るみ子

お見舞いに来ても病棟に入れないうちきょうだいさんに
遊んでもらう活動をしています。



〈スタッフ・さいとう はるみ 作〉
No.17 2019年6月発行



第3回 「こどもまつり」

実施日時：2019年5月12日(日)午後1時～3時
実施場所：国立がん研究センター中央病院
19階レストランMAHANA

2019年4月で丸6年。
小学1年生になった「こどものちから」です。
今年もたくさんの方からご協力を頂きました。
13家族33名を含み総勢58名の参加がありました。

今年のメニューは・・・

♡びよんへび
ガムテープを貼るところまでボラさんが作ってくれたので、シールを貼って、輪ゴムをつけて完成！
小さくたたんで手を放すと、元気いっぱい飛び出すへびに思わず笑顔がこぼれます。

♡リボンストラップ
たくさんの中からお気に入りの2色のリボンを選んで、一生懸命編みました。
手際よく編み進めるお友達に感心してしまいました。



♡パラシュート
ボラさんがカットした6角のビニール袋に模様を描いて、たこ糸をつけて、重りはビニールテープ。
ゆっくり降りてくるパラシュートに心もゆったりです。

♡母の日メッセージ
紙皿にたくさんのリボンで飾りつけて、日頃の感謝を書きました。
きれいなリボンは、
昨年のクリスマスに匿名で頂いたものです。
謎のサンタさん、ありがとうございました。



活動報告

- ◆小児待合室にて立ち寄ってくれた、きょうだい・病児・家族に遊んでもらいました。
2018年4月～2019年3月、実施回数：128回(内2部制18回)。
スタッフ・ボランティア：のべ470人。
訪問してくれたきょうだいさんや病児さんやご家族：のべ1,516人。
(内きょうだいさん：222人、病児さん：469人、親御さん：699人、
大人の患者さん：24人、その他(見学者含む)：102人)。
- ◆「しゅんさくさんの部屋」、第3木曜日小児待合室にて開催
- ◆網膜芽細胞腫の子どもを持つ家族の会、おしゃべり会開催時、保育サポート実施
- ◆12月24日(月)小児待合室にて「クリスマスおはなし会」
- ◆1月14日(月)本田技研工業(株)さま、「団体活動説明及び寄付品(カリンバ)受領」
- ◆1月16日(水)協働ステーション中央、協働マガジン掲載用インタビュー、受ける
- ◆2月 9日(土)築地本願寺東京ピハーフにて「がん患者と語らいの会」参加
- ◆2月17日(日)大阪工塚大学にて「スペシャルキッズサポーターの集い」ポスター参加
- ◆2月21日(木)大妻女子大学にて、「ボランティア振り返りの会」参加
- ◆3月 3日(日)東京おもちゃ美術館主催「病児と遊びのおもちゃケア」参加
- ◆3月16日(土)ドナルド・マイヤー氏「きょうだい支援講演会・
ファシリテーター養成講座」
- ◆3月17日(日)ドナルド・マイヤー氏「きょうだい支援ファシリテーター養成講座」参加
- ◆3月30日(土)琵琶湖プリンスホテルにて、大原薬品工業(株)「全社会議」にて講演
- ◆5月12日(日)がん研究センター中央病院にて「第7回こどものちから絵会」実施
- ◆5月12日(日)がん研究センター中央病院レストランMAHANAにて「こどもまつり」開催
- ◆5月18日(土)大妻女子大学児童学科、学生対象「ボランティア説明会」参加
- ◆6月14日(金)通信17号発行

今後の予定

- ◆ 6月16日(日)「藤田浩子さんのおはなし会」月島社会教育会館にて、午後2時～
- ◆ 6月30日(日) 内部研修「すくすく保育事前研修会」築地社会教育会館にて、午後1時～
- ◆ 7月14日(日) 「すくすく」網膜芽細胞腫の子どもを持つ家族の会、勉強会保育。
がんセンター中央病院、管理棟にて
- ◆ 8月14日(水) (株)ジャックスさまより、
東京ドーム野球観戦「日ハム対千葉ロッテ」戦
- ◆10月 6日(日)19階レストランMAHANAにて「プラネタリウム」開催
- ◆11月23日(土)19階レストランMAHANAにて
「クリスマス工場(カード作り・
スウィーツバイキング)」
- ◆12月13日(金)通信18号発行



うれしいお知らせ

活動をご理解・ご支援くださる企業や団体・個人のみなさまからたくさんのご寄付やご協力をいただきありがとうございます。

- ◆ガーゼ帽を縫う会さま
かわいくて、肌触りの良いガーゼ帽をたくさん頂きました。
- ◆本田技研工業株式会社さま
子ども達に人気のカリンパを頂きました。優しい音色に癒やされています。
- ◆日本フィランソロピー協会さま
色鉛筆をたくさん頂きました。書き心地の良さが抜群で、塗り絵が楽しくなりました。
- ◆森のライフスタイル研究所さま
カリンパをたくさん頂きました。シールを貼ってMYカリンパを作るのも楽しいです。
- ◆大阪で子ども食堂をされているリトルドアさま。江東区森下にある「Snug」さま。
後援会員の皆様。待合室活動や交流イベント活動の運営費として活用させて頂きます。
- ◆公益社団法人キリン福祉財団さま
2019年度キリン・地域のちから応援事業助成金を頂きました。
病院でプラネタリウムを開催することが出来ます。10月6日(日)、お楽しみに(▽)
- ◆国立がん研究センター中央病院 緩和医療科さま
おやこでいっしょにてづくりノート「だいすきなあなたへ」頂きました。
親子でシールを貼りながら、大切なあなたへ「大好き」が伝わりますように。



2018年度会計報告

<収入の部>		<支出の部>	
科目	金額	科目	金額
会費	298,000	病児や兄弟・家族の支援事業	182,476
寄付金	546,048	兄弟支援に関わる情報発信事業	172,188
難病の子ども支援全国ネットワーク	29,917	病児や家族等を対象とした交流事業	424,192
事業収益(イベント参加費他)	117,680	兄弟支援に関わる勉強会の開催および学びの機会の提供事業	322,899
受取利息	4	その他目的を達成する為に必要な事業	0
雑収入	521	管理部門	90,376
合計	992,170	合計	1,192,131
		経費外費用(雑損)	0
		当期正味財産増減額	-199,961
		前期繰越正味財産増減額	642,790
		次期繰越財産額	442,829

♡ごぼう袋ロケット
透明なごぼう袋にかわいい緩衝材とキラキラの折紙と空気を入れて膨らまし、口をしっかり止めて完成！
迫力ある飛び方にワクワク！。



♡ドリンクバーとスイーツバイキング
MAHANAさんからご協力いただきました。
チーズドック・鯛焼き・おだんご・ベビーシュークリーム・みかんたっぷりゼリー等々、お腹いっぱい(▽)
とっても美味しかったです。ごちそうさまでした。



嬉しい感想をいただきました！

「いろんな遊びがあって、楽しかったです。」
「リボンストラップがかわいく出来て嬉しかったです。」
「今回も子ども達が楽しませてもらって、両親ともゆっくり過ごさせてもらいました。」
「マッサージ、気持ちまでほぐしてくれました。」
「ボラさんと一緒に遊べて楽しかったです。」
「いつもの緊張から別世界にきたみたいでリラックス出来ました。」
「親子で楽しむことができました。」



参加して下さったみなさま、ご協力くださったみなさま、祈りを運んでくださったみなさま・・・
すべてのみなさまに感謝申し上げます。来年も開催しま～す(▽)

2019年5月11日(土)
東京ビハラー「がん患者・家族の語らいの会」通信206号に掲載されました。

「バイキンマンが好き」 きょうだいの 思い
NPO 法人こどものちから代表 井上のみ子

「病院が新しくなって、きょうだいがいる部屋が出来たけれど誰もいない。そこは私が過ごしたエレベーター前のベンチと同じ。おばちゃん『遊んで』って、居て欲しい。」がんセンター中央病院小児科病棟入口にある小児待合室での活動が始まったのは、兄が闘病中に小学4年生だった娘が、数年後に提案してくれたのがきっかけでした。がんセンターでは感染管理のために、小学生以下のきょうだいは面会に来て病棟に入れません。その日から一人で月に2回、3時間ずつの活動が6年間続きました。

幼稚園年長ぐらいのお兄ちゃんを預かったときのことで。初対面の彼に「アンパンマンは好き？」と聞くと、彼は「叱られても言いたいことや、やりたいことをしているバイキンマンが好き。」と言ってくれました。2時間ほど彼をバイキンマンとして、やりたい放題の遊びをしました。終了の時間を告げると「遊んでくれてありがとう。ぼく、アンパンマンに戻るね。」しばらく下を向いた後に顔をあげた年長児は、すでにアンパンマンの顔になっていました。

その後、難聴の兄を預かったことがありました。入院中の弟は、小児がんに罹患するまで難聴の兄の通訳として日々を過ごしてきたらしいのです。私が兄と汗だくで遊んでいると、点滴をつけて病棟から出てきた弟は「おばちゃん、お兄ちゃんの言うことがわかったの？」と問いかけてきました。「言葉はなかったけれど、『私』は楽しかったよ。」と伝えると何かホッとしたような弟の表情がありました。数ヶ月後、弟は病気のため亡くなりましたが、同じように闘病する仲間と友人関係を作り、個人として生き抜いたと思っています。

小児待合室の窓から斜め向かいに、病棟内プレイルームを覗くことが出来ます。病棟内で友だちと楽しみにゲームをするきょうだいを眺めて、待合室にも同じゲームがあればきょうだいと一緒に楽しめるのではないかと、ゲームの購入を希望した弟がいました。

「病気のきょうだいの状態が良くなるのは『きょうだいが治療をがんばったから』。悪くなるのは『自分が悪いことをしたから』と自分自身を責めてしまうきょうだいもいます。また病気になった子どもには、急に励ましの手紙が増えたり、見舞い客が増えたり、沢山の応援が届きます。けれど病気ではないきょうだいには、応援のメッセージは届きません。時には親御さんが看病に専念するため、きょうだいも祖父母や叔父・叔母に預けられることもあります。急に保育園に通うことになったり、放課後の習い事が増えたりと、環境が大きく変化するのは、病気の子もばかりではありません。小さなきょうだいには、病気のことを話しても理解出来ないだろうとの大人の判断から、説明してもらえないことがあります。大人が説明したつもりでも、子どもが十分に理解出来ないこともあります。「私は、蚊帳の外だった。」「理解していれば、家族の一員として私なりにできることはあったはず。」と言ったように、きょうだいも深く傷ついているのです。

「私の心の傷は消えない。けれどずっとそれを覚えていて、関わろうとしてくれるあなたの行動が、私の背中を押している。この活動を通して、他の大人になったきょうだいや現在のきょうだい・これからきょうだいになる人達を支えることになると思う。」最近、すっかり大人になった娘から感想をもらいました。NPO 法人化することが出来て7年目。気持ちを新たに、これからも活動していきたいと思っています。

絵本紹介

静岡県立こども病院医学図書室
塚田薫代

やさしいところで

『おなじ月をみて』ジミーリャオ、ブロンズ新社2018
家の窓から外を見て誰かを待っている少年、そこへけがをしたライオン・ゾウ・ツルがやってきます。やさしい少年に手当してもらった動物たち。やがて少年が待ちわびた人が帰ってきますが…。どことなく憂いをおびた表情の動物たちに、そっと手を差し伸べたくります。作者のジミーは台湾の絵本作家です。

青い月がモチーフのこちらもどうぞ。
『君といたとき、いないとき』小学館、2001
ジミーリャオは急性骨髄性白血病のサバイバーなんです。そう思って読むと、ひと味がうらみがする2冊です。

『ねこの小児科医ローベルト』木地雅映子、偕成社、2019
真夜中の急な子どもの病気、親にとって心底心配な一大事です。どうしよう、救急車を呼ぼうか？ そんな時、バイクでさっそうと駆けつける小児科医ローベルト先生！ネコですが緊急時ですからそんなこと言ってる場合じゃありません。親や兄弟にやさしい言葉をかけ、最適な処置をする腕利きぶり。「子どもがぶじに大きくなるってことは、このせかいでいちばんしあわせなことなんだからね」まったく同感です。



▲同じ月を見て
ジミーリャオ・著
ブロンズ新社2018



▲君といたとき、いないとき
ジミーリャオ・著
小学館2011



▲ねこの小児科ローベルト
木地雅映子・作 五十嵐大介・絵
偕成社2019年

看護師の立場から 小林文香

先日のこどもまつりで、ハンドマッサージ中にその方の言葉にハッとしました。「私はね、一日一つのことができた自分をほめるようにしてるの。」あれもこれもと情報過多の時代に、自分に課す事柄が日々どれだけあるか。それも達成可能とは遠く、やり切れなさを感じている方は少なくないのでは、と思います。「今日も一つ、きちんとできた。」「充分できている自分を認める。」大切なことですね。自分を褒める域値を下げたのです。喜びや笑いの域値も…。箸が転がただけで笑えたり、どんなものでも美味しく感じられる喜びがあるとしたら幸せです。貴方の感情や反応は決まっているようで、実は如何様にも幅を増幅できるということです。貴方にとって、とても耐えられないような苦しみや悲しみも、実はこの域値を下げるギフトかもしれません。立ち上がる力は以前より高い山を超え、深く根を張るでしょう。何でもない日常の中に幸せを感じる事ができるとしたら、どんなに素晴らしいでしょうか？入院や病気、急激な人生の変化の只中にある日々、内的成長を遂げていける、人生経験の豊かな1人のお言葉に思いを馳せた一日でした。